

相談支援専門員の早期介入と、 その効果について ～発達相談外来をきっかけに～

はあと相談支援事業所山口

山田 崇泰 田中 麻衣子

相談支援専門員の業務

- 障がい者（大人）の方

障がいのある方が、障害福祉サービスを利用する前に、サービス等利用計画を作成し、必要な支援およびサービスが受けられるように関係機関や市町村との連絡調整を行い、定期的に利用計画を見直しながら、継続した支援を行う

- 障がい児（こども）の方

障がいのある児童が、障害児通所支援等（児童発達支援や放課後等デイサービス等）の福祉サービスを利用する前に、障害児支援利用計画を作成し、一定期間毎のモニタリング等を行いながら、サービス利用等を支援する

青藍会グループでの障害福祉サービス

①児童福祉事業

児童発達支援、放課後等デイサービス、
医療的ケア児・重症心身障がい児対応医療型児童発達支援

②障害福祉事業

就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援、
グループホーム、生活介護

※お一人おひとりに合わせたサービスを提供できるよう
サービス等利用計画を作成

はじめに

- 新規の相談は、山口市障がい者基幹相談支援センターからある程度サービスの方向性が決まった状態での依頼が多い

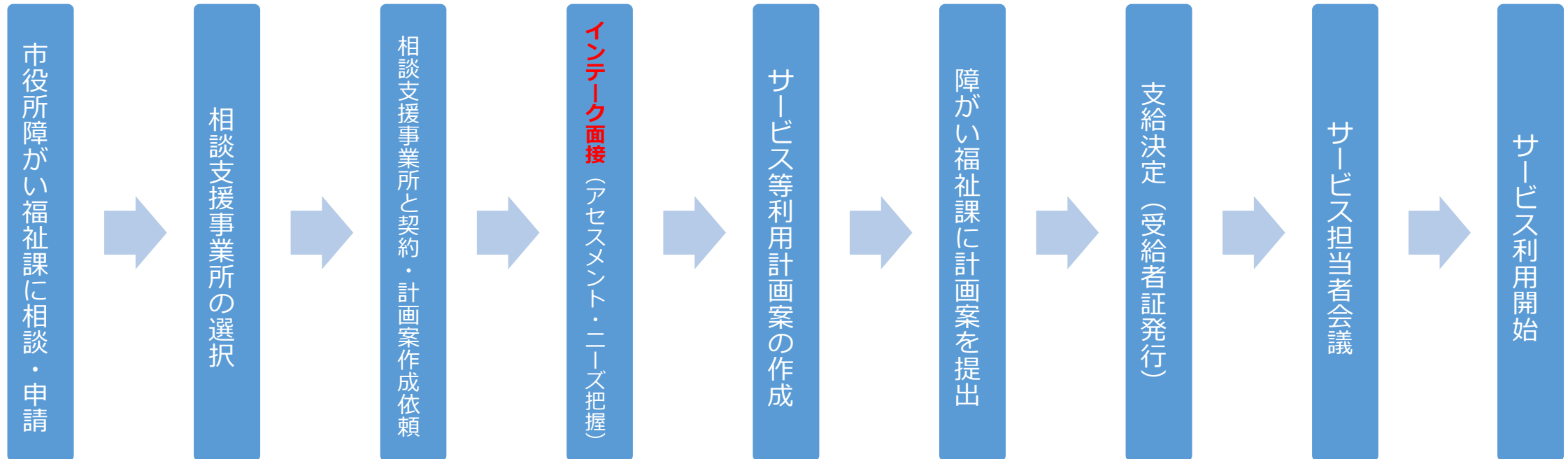


しかし

- 青藍会では**発達相談外来**をはじめとする障害福祉サービスの
新事業が複数スタート

※初回の相談となる「**インターク**」の部分に直接相談支援
事業所として関わるケースが増えている

障害福祉サービス利用までの流れ



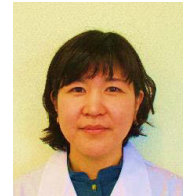
♥ ハートクリニック新山口 小児科・内科

6月発達相談外来をはじめました

〔担当医師〕



友近 喜代子 医師



岡 桃子 医師

育児・生活の中で
気になることがあ
りましたら、まず
はお気軽にご相談
ください♪

診療時間 月9:00～17:00 水9:00～13:00 金9:00～17:00

- 言語・発達の遅れ … 「うちの子まだしゃべらないんだけど大丈夫？」
「よその子より歩くのが遅い気がする…」
- 幼稚園・保育園から言われた… 「先生から言われたけど本当に受診すべき？」
- こだわりが強い、偏食が強い、落ち着きがない、かんしゃくが激しい

完全予約制

1. 専門の医師としっかり相談が可能です。
2. お子さんにあったサポートを一緒に考えます。
3. 必要に応じて療育施設のご紹介、利用するための
意見書を作成します。
4. **田中ビネー知能検査 V、WISC-VI 金曜日のみ(10月から)**



問い合わせ先
〒754-0020
山口市小郡平成町1-18
TEL 083-976-2450 松永



取り組んだ課題

- ・ 障害福祉サービスの課題
- ① 複雑で分かりにくい制度やサービス開始までの流れ
- ② 相談しづらい状況（本人家族を取り巻く環境など）

相談支援専門員が関わるタイミングが変わることによって、どのような影響があり、更に上記の課題解決にどう関連してくるかを、事例を通して検証する

具体的な取り組み

【事例】 A君（9歳男児）

状態：言葉の遅れ、狭い場所・暗い場所が苦手
不安な時や納得できない時、思いどおりに行かない時はパニックになり大声を出す

【相談経緯】

母親よりハートクリニック新山口発達相談外来に相談
放課後デイサービスの利用を考えているが、上手く利用
に結びつかない状況

【経過】

- ①言葉の遅れがあり、言語教室に通うも、環境に馴染めず
パニックになり中止
- ②クリニック新山口「発達相談外来」へ受診
- ③医師より「自閉症」の診断・説明
障害福祉サービスの申請に必要な意見書作成
- ④状況の聞き取り、意向の確認、障害福祉サービス利用に
ついての説明 ⇒計画作成依頼あり

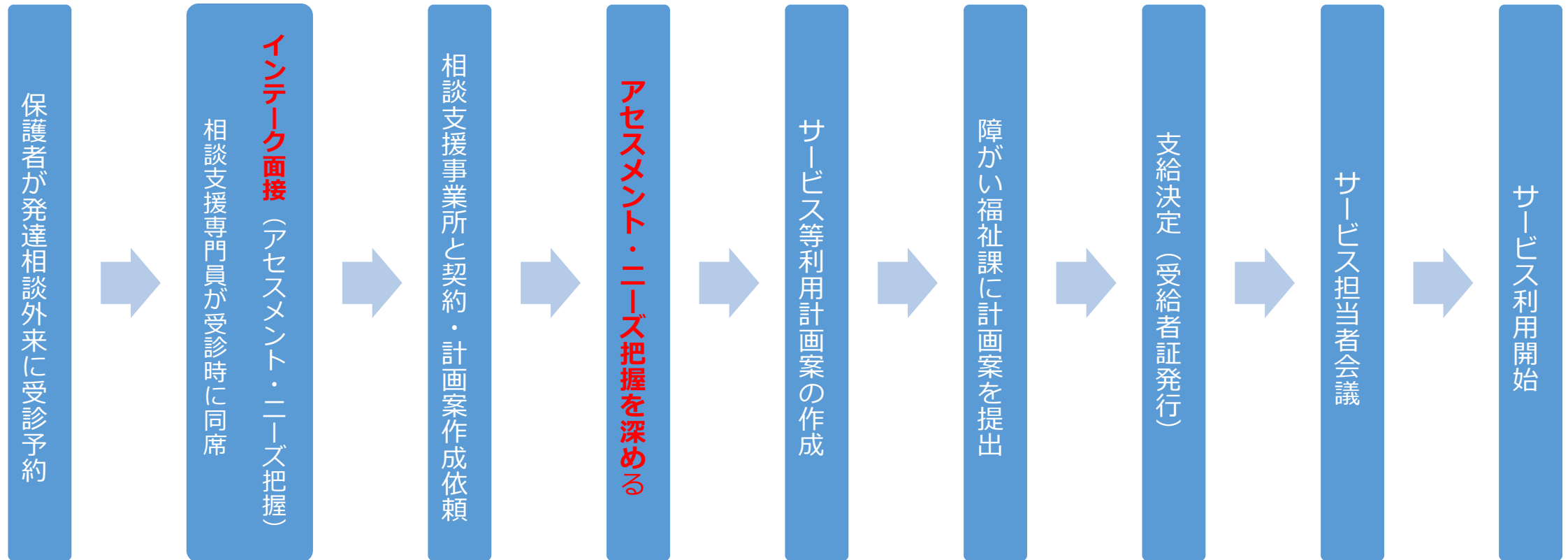
- ⑤家族で他事業所への見学を済ませていたが、事業所と家族との意向が異なり、不安がある状況
医師から体を動かすことを勧められ、[はあと f + j 小郡南]を提案
- ⑥見学の調整、事業所への情報提供
- ⑦見学 ⇒利用の意向確認
- ⑧サービス開始後 ⇒困りごとや心配ごとを発達相談外来・事業所と情報を共有し、家族の不安を軽減
※本人の状態安定に向けチームとしての取り組みを継続

活動の評価①

発達相談外来の「診断」の場面から立ち会う

- ⇒①詳しい本人状況の確認・把握
- ②医師との方向性の確認
- ③サービス調整に上記の情報を役立てる

障害福祉サービス利用までの流れ（今回のケース）

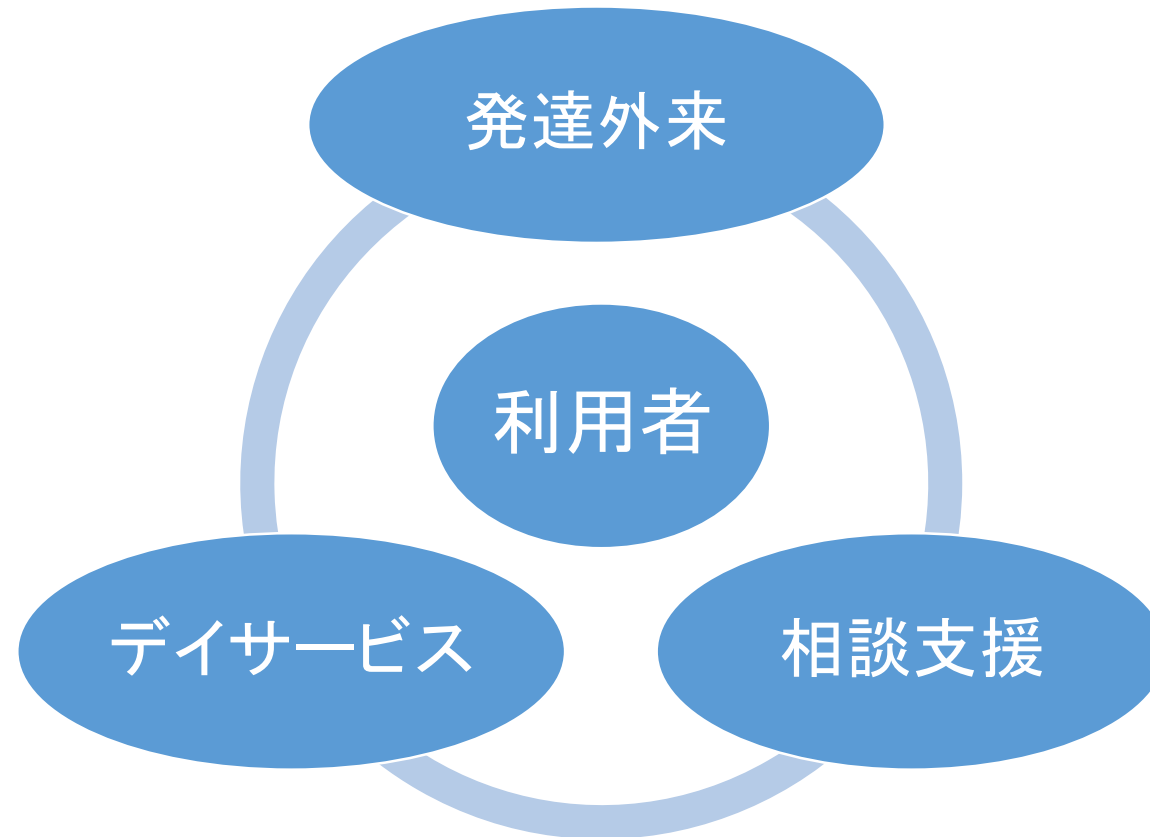


活動の評価②

相談を一手に引き受ける

- ⇒①保護者の思い・今後の意向を正確に確認
- ②分かりにくい障害福祉サービス利用についての流れ
を丁寧に説明
- ③保護者の不安や焦りの軽減に繋がる

- 状況や課題など情報共有がスムーズにでき、問題解決へのスピードを上げることにも繋がった



おわりに

早期診断、早期介入が重要

複雑な障害福祉のシステム＋インターネットの情報
何が正しいのか、どうすれば良いのか判断に迷う



専門職がチームで関わることができる
「入り口の一本化」が、発達相談外来である

- 正しい診断を早期に受ける

⇒保護者が子供の特徴を的確に理解し日々の子育てに役立てることに繋がる

- 正しい診断は支援の早期介入につながる

⇒適切なサービス（療育）に繋げる第一歩である



有効活用することで

「生きにくさ」を解決 「得意を伸ばす」

- ・ 相談スキルを向上していく
- ・ 法人内の障害福祉サービス全体がスキルアップ
受け皿を大きく深くしていく必要がある